

## 大腿骨近位部骨折について

整形外科 部長 松田 茂

日本人の平均寿命は戦後伸び続け、2017年の平均寿命は男性で81歳、女性で87歳と報告されています。高齢者の人口増加に伴い大腿骨近位部骨折の患者数も増加し、2020年には年間24万件の骨折患者が発生すると予想されています。高齢者で骨粗鬆症があると骨折しやすく、寝たきりの原因にもなるため社会問題となっています。

### 症状と診断

症状は転倒や転落後に大腿の付け根の部分に痛みが出現し、立ったり歩くことができなくなります。但し、ずれていない骨折やずれの極めて小さい骨折(所謂、「ヒビ」)の時はつたい歩きが可能な場合があり、CTやMRIでないと判別困難な骨折もあるため注意を要します。骨折を生じた部位によって、大腿骨頸部骨折(関節内骨折)と大腿骨転子部骨折(関節外骨折)に大別されます。



### 治療

治療については、受傷される方はほとんどが高齢者であるため、長期寝たきりにより全身状態の悪化や認知症の問題から早期に手術を施行し早期離床をめざすことが目標になります。年齢や骨折の部位や状態により、種々の機材を用いて手術(観血的骨接合術、人工骨頭置換術、人工関節置換術)を行います。術後、基本的には翌日より車椅子への移乗からリハビリを開始し離床をはかります。

高齢者が多いためリハビリには時間を要することが多く、術後3週間程度でリハビリテーション専門の病院に転院のうえ療養・入院リハビリテーションを継続いただき、回復をまって自宅に戻られる方が多いです。



【頸部骨折 観血的骨接合術施行例】



【頸部骨折 人工骨頭置換術施行例】



【転子部骨折 観血的骨接合術施行例】

### 当院でのとりくみ

2017年1月~12月に当院にて大腿骨近位部骨折に対して手術加療を125例に行い、平均年齢82.0歳(41~101歳)で男性38例、女性87例と高齢女性が多くみられました。当院入院後の術前待機期間は平均1.16日(日本での平均3日)と早期に手術を行えるよう、手術部・麻酔科・内科各部署の協力体制を構築しています。原則は手術翌日からのリハビリ開始、術後の摂食量の低下や嚥下障害には栄養サポートチーム(NST)や言語療法士の介入、術後せん妄や認知症に対しては認知症サポートチーム(DST)や作業療法士(OT)が介入のうえ、状態の改善・悪化防止に務めています。また入院早期より医療福祉相談科(医療ソーシャルワーカー)を窓口としてスムーズに転退院の調整をはからせていただいています。もともと骨粗鬆症が基礎にありさらに未治療であることも多いです。年齢的に定期的な通院が困難な方につきましては、骨粗鬆症の投薬治療については地域のかかりつけの先生方のお力をおかりしています。

# ～婦人科低侵襲手術のすすめ～

日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 日本婦人科腫瘍学会代議員 手術支援ロボット「ダヴィンチ」術者認定

産婦人科 主任部長 村越 誉



## 年間1,200件以上の手術を行っています

千船病院産婦人科では、腹腔鏡等の低侵襲手術を積極的に取り入れ安全に行っています。産婦人科のみで年間1,200件以上の手術を取り扱い、そのうち約500件は低侵襲手術を行うなど高度で患者さまに優しい医療を提供しています【図1】。

## 日本産科婦人科内視鏡学会の腹腔鏡技術認定医師が4名在籍しています

千船病院産婦人科には、4名の「日本産科婦人科内視鏡学会の腹腔鏡技術認定医」が在籍し、同学会の「腹腔鏡技術修練施設」に認定されています。当院では、子宮筋腫、卵巣嚢腫ならびに子宮内膜症などの良性疾患の治療に際して、腹腔鏡や子宮鏡などの鏡視下手術の割合が約90%と標準化されており、可能な限り開腹手術創を残さない治療を心掛けています【図2】。子宮筋腫に対する腹腔鏡下子宮全摘術、腹腔鏡下子宮筋腫核出術(子宮を温存)、卵巣嚢腫、子宮内膜症ならびに子宮脱等の骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下手術で多数の実績を残しています。

腹腔鏡下手術は開腹術に比べて多くの利点があります【図3】。さらに拡大視することが可能であるため精密な手技が可能となり、より高度な手術に適していると言えます。さらに当院では3Dモニターも導入しており、より精巧な画像で手術を行っています。これらの手術を「日本産科婦人科内視鏡学会の腹腔鏡技術認定医師」が主導して行うことでより高い安全性も担保しています。

## 子宮頸がん・子宮体がんへも腹腔鏡下手術が可能です

千船病院は、地域における「がん診療拠点病院」ならびに「がん治療認定機構における研修施設」に認定されており、4名の同機構がん治療認定医が在籍し積極的に婦人科がんの治療を行っています。2017年7月に大阪市内の病院では唯一「先進医療」として腹腔鏡下子宮頸がん手術を導入しました。

また2018年4月より腹腔鏡下子宮頸がん手術を保険で行うことが可能になりました。子宮体がんに対しては、2015年より「腹腔鏡下子宮体がん手術」の施設認定を受け、高度な最先端医療を提供しています。

## 子宮筋腫・子宮頸がん・子宮体がんロボット手術が導入されました

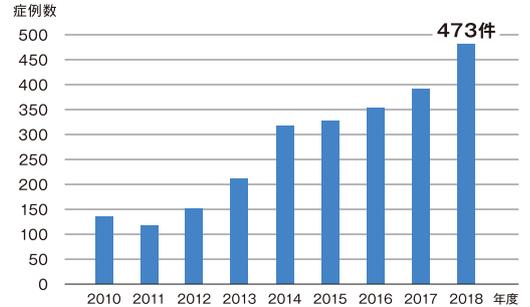
2017年7月の福町への病院移転を機に、最新型「da Vinci Xi (ダヴィンチ)」を導入しました。既に2018年1月より子宮頸がんに対する「da Vinci Xi」を使用した「ロボット支援腹腔鏡下広汎子宮全摘術」を開始しました。2018年4月より、婦人科領域では子宮筋腫等の良性子宮疾患と子宮体がんへの「ロボット支援腹腔鏡下手術」を保険で行うことが可能になりました。

当院でも2018年7月から子宮筋腫等の子宮良性疾患への「ロボット支援腹腔鏡下子宮全摘術」を安全に開始しており、大阪府内でも数少ない認定施設です【図4】。

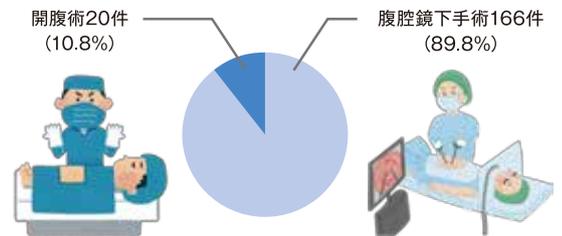
詳しくは当院HPの婦人科ロボット手術外来をご覧ください。

## 最後に

最先端の医療を提供するだけでなく、一人一人に合った治療を納得してもらったうえで行うことが大切です。患者様やご家族が安心して医療を受けて頂くために丁寧な説明と心のサポートを心掛けています。どうぞよろしくお願い致します。



【(図1)当院の婦人科鏡視下手術件数年度推移】



【(図2) 当院における2018年の子宮全摘186件の手術方法】



- 創部が小さい
- 痛みが少ない
- 出血が少ない
- 整容性に優れている
- 入院期間が短く社会復帰が早い

### 腹腔鏡手術が可能な病気

- ・子宮筋腫
- ・子宮内膜症
- ・子宮体がん
- ・卵巣腫瘍
- ・子宮頸がん
- ・子宮脱等の骨盤臓器脱

【(図3) 腹腔鏡手術の利点】



【(図4) 手術支援ロボット「da Vinci Xi」】

日本は、世界に類をみない速さで超高齢化社会となり、認知症の人も年々増加しております。2015年の厚生労働省の報告では、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症の人が700万人を超え、65歳以上の5人に1人が認知症になると推計されています。急性期病院である当院にも、認知症のある患者様が病气やけがの治療のために入院されます。入院された認知症の患者様は、検査や手術など非日常的な生活を送ることとなり、普段の自宅や施設とは異なった環境で生活をせざるをえない状況となります。そのような認知症の患者様が抱く不安や恐怖感などを少しでも緩和し、スムーズな治療を受け、安心して穏やかな療養生活が送れるように、認知症サポートチーム(神経内科医師、薬剤師、作業療法士、言語療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、認知症看護認定看護師)が病棟のスタッフと連携を図っています。

また、そのような患者様が少しでもベッドを離れ、治療を忘れ穏やかな入院生活を過ごして頂けるように、認知症サポートチームが主体となり、院内デイケア「福ちゃん」も行っています。

「福ちゃん」という名前は、病院のある福町に由来しており、場所は見晴らしの良い9階ラウンジで行っています。天候の良い日は、外のデッキに出て日光浴を行い季節感なども感じて頂き、体操やゲーム、歌など集団レクリエーションを行うことで、患者様の活気があふれる貴重な時間を共有させていただいております。当院では、今後も認知症の患者様とご家族様をサポートしていけるよう、スタッフ一同、チーム医療に取り組んでいきたいと思っております。何かお困りのことがございましたら、どんな些細なことでもお気軽にご相談ください。



【院内デイケア「福ちゃん」風景】

## ☒ 当院における持参薬の対応について

薬剤科 科長 木村 真策

当院には毎月約800名の患者さまが入院してこられます。この中には、当院や他の医療機関から処方されたお薬を入院時に持って来られる(以後、「持参薬」という。)患者さまが約半数程度いらっしゃいます。持参薬には、当院で採用されているお薬もあれば、採用されていないお薬もあり、継続して服薬していただくためには、飲み方や使用方法をしっかりと確認しなければなりません。そこで当院では、入退院支援センター(病院1階)内に「おくすり確認コーナー」を設け、予定入院の患者さまの持参薬を薬剤師が確認し、電子カルテに反映させるようにしています。

また、急な入院のため入退院支援センターを利用されなかった患者さまの持参薬については、病棟薬剤師と入退院支援センターの薬剤師が協同で確認するようにしています。その際、中止が必要な薬剤や入院中不要な薬剤に関して、薬剤師より主治医に確認し、お薬の整理をさせていただきます。

また医薬品情報室では、入院される前から中止しておく必要のあるお薬の確認やお薬全般のご相談も承っています。お薬の確認には、「おくすり」そのものと「おくすり手帳」がとても大事です。来院される際は、必ずお持ちいただくようお願いいたします。



【おくすり確認コーナー】

## 「親子で病院探検隊」開催報告

5月12日はフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ「看護の日」と制定されています。今年は、子供たちにも病院を身近に感じてほしいとの思いから、趣向を変えて近隣の小学生と親御さんを対象とした「親子で病院探検隊」というイベントを開催しました。

当日は19家族に参加して頂き、「病院ってどんなところ?」、ドクターの仕事、ナースの仕事についてのミニ講座を開きました。ナースの仕事の講座では実際に脈拍を測定したり、聴診器を用いて呼吸の音を聞く体験を行いました。また、ナース服・白衣の試着コーナーも作り、子供たちのかわいい姿を見ることもできました。

ミニ講座の後、ドクターによるプッシュプロジェクトを開催し、映像を見ながら、

心臓マッサージの練習やAEDの使い方を学んでもらいました。親御さんもお子さんも真剣に話を聞き、「いのちの大切さ」に触れる機会となったようです。病院探検隊では手術室や調剤室の見学、小児科外来の見学、車椅子体験、小児科病棟の見学、救急車の乗車を行い、子供たちは笑顔いっぱい病院探検を終えました。

参加したご家族からは「貴重な体験ができました、自宅でも心臓マッサージの練習をしようと思います。」、子どもたちからは「将来、救急救命士になりたい」とうれしい言葉を聞くことができました。これからも地域の人が身近に感じる病院、地域に貢献できる病院でありたいと思います。





## 内科・小児科

# しおたクリニック

〒660-0822 兵庫県尼崎市杭瀬南新町4-1-24

**TEL:06-4868-4801**

診療時間 月 火 水 木 金 土 日

8:30~12:00	●	●	-	●	●	●	★
16:30~19:00	●	●	-	●	●	-	-

★:日曜・祝日は8:30~11:45診療

### 診療所の特徴

2001年の開業以来、日曜・祝日も診療をしています。日曜しか仕事を休めない方、子供の突発的な病気の発症で困った方、登校前に受診しておきたいとお考えの方などのために、午前診は8時30分より診察をしています。家族単位の受診が多いのも当院の特徴です。休日には、遠方から来院される方も多く、また在宅医療にも開業以来携わっています。地域のケアマネージャー、看護師、ヘルパー、薬剤師などと連携をはかりながら少しでも地域医療に貢献できればと考え日々頑張っています。

### 潮田院長から一言

医師になる前に天理よろず相談所病院で診療放射線技師として勤務し、医師になってからは、内科はもちろん放射線科で画像診断、カテーテル検査、放射線治療などを学び、幅広い診療科と関わりながら経験を積んできました。これまでの経験すべてを総合診療のために役立てています。

### 千船病院との連携について

いつも患者様を受入れて頂き、感謝しております。引き続き休日に検査や入院が必要と判断した患者さまの受け入れをお願いできれば幸いです。

- 診療機能** 往診（近隣のみ）、訪問診療
- 医療処置** CPAP、HOT、麻薬処方 **スタッフ** 看護師2名
- 院内設備** 心電図 パルスオキシメーター 超音波エコー 単純X線 オージオメーター
- 予防接種** 麻疹 風疹 日本脳炎 インフルエンザ
- 処方** 院外処方（※ジェネリック医薬品の利用可）
- 施設機能** バリアフリー、車椅子対応、駐車場 3 台
- その他** 予防接種、健康診断

### 医師の紹介・経歴

- 1997年 福井医科大学医学部（現 福井大学医学部）卒業  
大阪大学医学部附属病院 第二内科 勤務  
市立吹田市民病院 勤務
- 2001年 大阪大学医学部附属病院 放射線科勤務  
しおたクリニック開業



院長 潮田 昌之

## お近くの愛仁会グループ施設

高槻病院	● 大阪府高槻市古曽部町1-3-13	TEL:072-681-3801
愛仁会リハビリテーション病院	● 大阪府高槻市白梅町5-7	TEL:072-683-1212
明石医療センター	● 兵庫県明石市大久保町八木743-33	TEL:078-936-1101
尼崎だいもつ病院	● 兵庫県尼崎市東大物町1-1-1	TEL:06-6482-0001
井上病院	● 大阪府吹田市江の木町16-17	TEL:06-6385-8651

千船病院の  
ホームページは  
こちらから

